

2016 師走の夢「ひすい(翡翠)、パワーストーンの魅力」

2016年5月10日、日本地質学会は全国47都道府県について「県の石」を選定し、「ひすい輝石岩」が新潟県の岩石として選定されました。

2016年9月24日、(一社)日本鉱物科学会は日本の国石を選定し、「ひすい(ひすい輝石およびひすい輝石岩)」が選ばれました。その選定理由には、①日本でも採れる宝石として有名、②世界ジオパークとともに教育と観光の資源として知られる、③主要な博物館で展示され、高等学校の日本史で学習する、④様々な色や粒径の結晶の集合体を示し、きらめきが美しい、⑤有名な緑に加えてラベンダー色などの多様性と半透明の風合い、⑥日本の地質に特徴的な沈み込み帯にのみ産する、⑦国内の5億年前に生成したひすいは世界最古で、地球の冷却史との関連が指摘されている、⑧世界で最古のひすい文化(縄文時代、約7,000年前)となった、⑨宝飾品、庭石などに利用されている、⑩縄文時代から奈良時代にかけて玉類として利用された、⑪一つの産地の石が、古代の日本全域に伝播したのはひすいのみである、⑬古墳時代には朝鮮半島にも伝播している、⑭奈良時代から昭和初期まで利用が断絶し、昭和初期に再発見された、⑮国内には約10か所の産地があり、保全地域では容易に観察できる、⑯保全されている産地が多い、⑰海岸や河川の転石として産するものは枯渇せず、将来も観察できる可能性が高い、ということが挙げられています。最終選考まで残った他の石には、「花崗岩(花崗岩質岩およびそのペグマタイト)」、「輝安鉱」、「自然金」、「水晶(日本式双晶、瑪瑙、玉髓、碧玉を含む)」があり、1回の投票では過半数に達せず、決選投票を行ったそうです。



ひすい輝石岩(写真提供:糸魚川市)



ひすい輝石岩の大珠(写真提供:糸魚川市)



(提供:糸魚川ジオパーク協議会)

さて、パワーストーンの魅力の一端を垣間見たように思いますが、如何ですか?(文責 アーキジオ春秋)